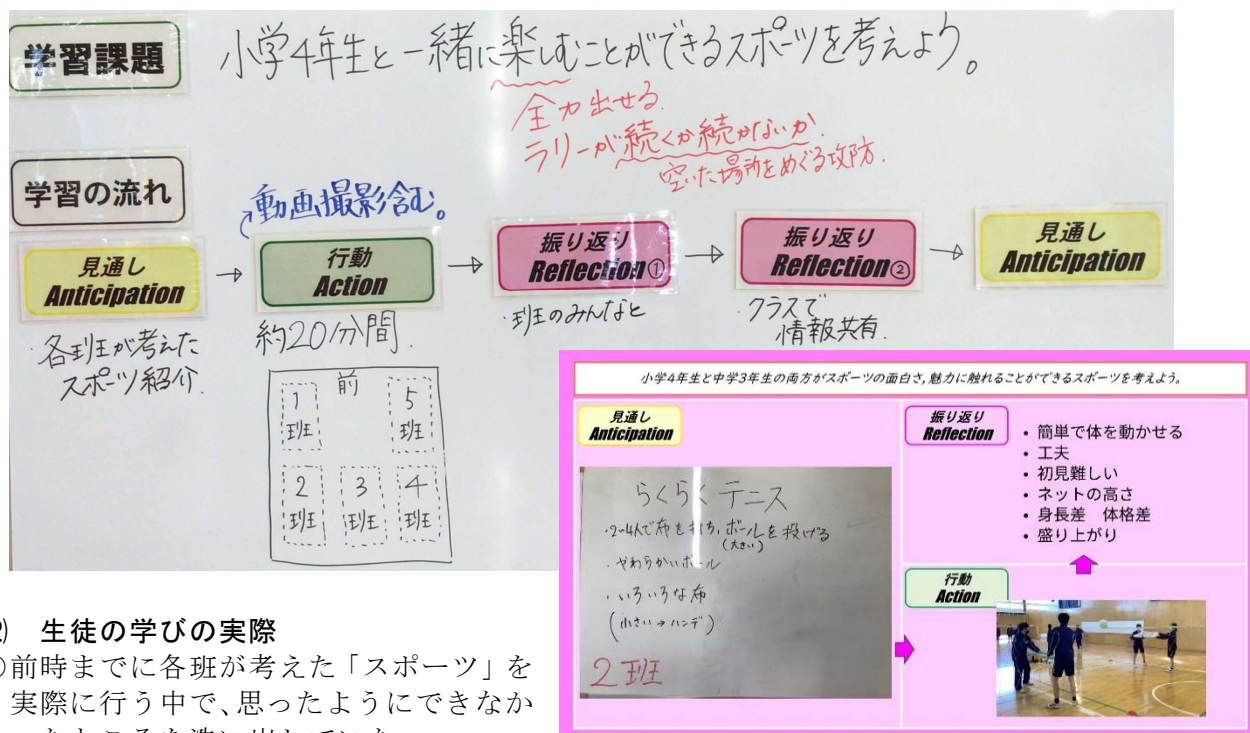


授業の成果と課題

1 授業の実際

(1) 板書



(2) 生徒の学びの実際

- 前時までに各班が考えた「スポーツ」を実際に行う中で、思ったようにできなかったところを洗い出していた。
- 各班が、スポーツを実践したり、改善点について話し合ったりして、Try&Error を繰り返しながら、意欲的に活動していた。
- 学級全体での振り返りの時間において、各班の取組を認めながらも、客観的な意見を出し合い、よりよいものを作り上げようとする姿が見られた。



2 成果（○）と課題（●）

- 「異年齢集団とのスポーツ交流会の種目を考える」という課題に対して、AAR サイクルを生かした授業展開の工夫をすることで、自分たちの頭でイメージしたことと実際に行ってみて上手くいかなかったことを整理し、見通しが甘かったということを実感させることがつながった。また、そのことによって、よりよいものを創っていかうとする態度を養うことができた。
- 授業の中に、AAR サイクルをより効果的に取り入れる方法を考える必要があった。一つ目は、教師が設定しなくても、生徒同士の学び合いが活性化するような展開にすることである。そのためには、生徒自身が日頃から AAR サイクルを意識して取り組むことができるような指導が必要である。二つ目は、次の授業やこれからの生活に繋がるような「問い」を考えさせる振り返りを実施することである。生徒がエージェンシーを発揮しながら授業を展開していくために、振り返りを一層充実させたい。
- 「スポーツをつくる／はぐくむ」活動をさらに充実させるために、体づくり運動でレクリエーション協会の推奨している遊びを取り入れたり、単元の導入などの適切な場面で「パラスポーツ」、「ゆるスポーツ」等を取り上げたりしていく必要がある。